

トルコの金融市場動向 Weekly Report

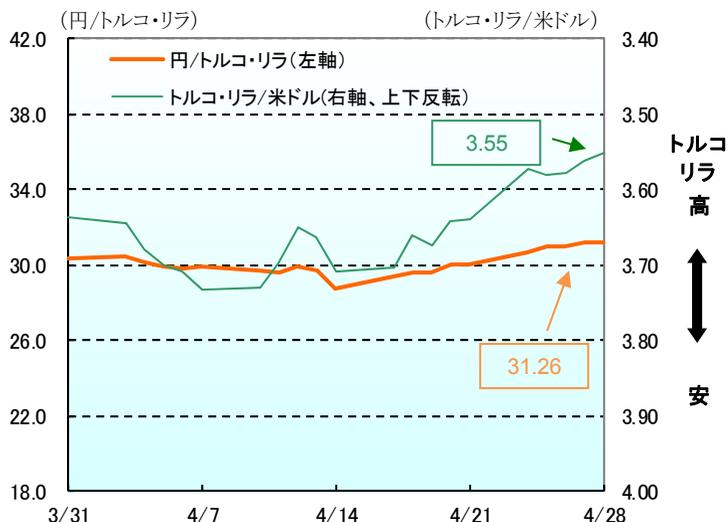
2017年5月2日

【2017年4月22日～2017年4月28日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通してみると対米ドル、対円で上昇しました。また、トルコの2年国債金利は上昇となりました。26日（現地、以下同様）に行なわれた金融政策委員会では、1週間物レポ金利やコリドーの上下限金利は据え置かれたものの、3月に引き続き、後期流動性貸出金利については0.50%引き上げ12.25%とすることが決定されました。トルコ中央銀行は必要ならば一段の金融引き締めを実施するとし、引き締めの金融政策姿勢をインフレ見通しに大きな改善がみられるまで継続する旨も示しました。23日にはフランス大統領選挙の第1回投票を終え、政治的リスクや地政学リスクへの懸念が和らいだことなどを背景にトルコ・リラは堅調な推移となりました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2017年3月31日～2017年4月28日)



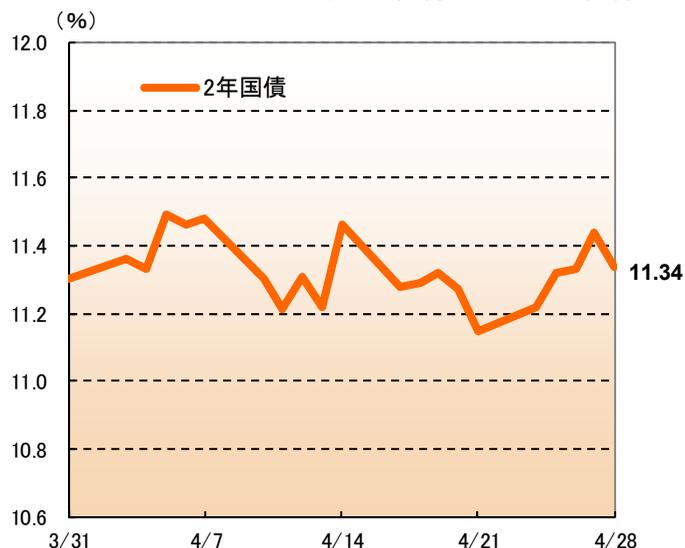
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

今週は、4月消費者物価指数の発表が予定されています。事前の市場予想では、インフレ率のさらなる加速が見込まれており、今後の金融政策を占う上でもインフレ動向には注目が集まりやすいと考えます。また4月の国民投票で改憲が認められたことから、大統領の政党所属が可能となったことを受けて、与党AKP(公正発展党)は臨時会議の招集を決定しており、同会議でエルドアン大統領が党首に復帰するものとみられています。影響力を強化したエルドアン大統領がどのような方針を示すのかなど、政治動向に注意が必要と考えます。

【トルコ 金利推移】

(2017年3月31日～2017年4月28日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>